

ブランド米育成とイネ・コアコレクション および優良種もみ供給システムの構築

小島 洋一郎 氏（52歳）

富山県農林水産総合技術センター
農業研究所 育種課長



1 業績の概要

背景

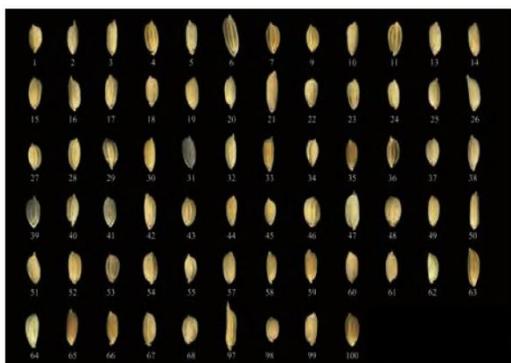
富山県は、全国屈指の水田率、ほ場整備率のもと水田農業を基盤とした良質米生産県であり、その地位をゆるぎないものとするため、幅広い遺伝資源を活用した独自性の高い品種の開発が求められていた。

また、富山県は、県間流通量の約6割を供給する日本屈指の種もみ生産県でもあり、主要農産物種子法廃止後も、民間企業等から優良な種もみの委託生産が増え、供給体制の堅持・強化が望まれていた。

研究内容・成果

富山県の稲作の将来を予測しながら先進的な手法を取り入れて品種開発に取り組み、早生の「てんたかく」、晩生の「てんこもり」、中生の「富富富」など、いずれも近年の温暖化に対応した品種を開発した。さらに、農研機構の農業生物資源ジーンバンクが保有する多数のイネの中から、各種形質と遺伝的変異を最大限に含む少数の品種からなる実験セット（コアコレクション）を作成した。

また、「種もみクリーン原種供給センター」を設立し優良な種もみを供給するシステムを構築した。



世界のイネコアコレクション(粳)
約4万点の中から、69点を選定
※写真は農研機構HPから引用



種もみクリーン原種供給センター原原種生産隔離ほ場
カーテンで3部屋に仕切り、イネの開花期間中は閉切ることにより他家受粉を防止するための施設

普及状況

令和3年度の「てんたかく」、「てんこもり」、「富富富」の3品種の富山県における作付面積割合は21.8%と普及拡大しており、一部の品種については、他府県でも奨励品種への採用が進められている。

世界と日本のイネコアコレクションは、これまで農業生物資源ジーンバンクを通じて、国内外の様々な研究機関や大学にこれまで約700セット供給され、イネの新品種開発に利用されている。

「種もみクリーン原種供給センター」は、令和元年から年3品種を基本として運営を開始し、隔離圃場での栽培を行った後に種子生産農家へ提供(計9品種)することで、種子生産における労力負担の大幅な削減に貢献している。

2 評価のポイント

先進的な手法を取り入れて品種開発に取り組み、いずれの品種も基幹品種として普及している。さらに、コアコレクションは遺伝資源の活用を促進し、国内外のイネ育種の発展に貢献した。また、「種もみクリーン原種供給センター」を設置して優良な種もみを供給するシステムを構築し、富山県の種もみ産地の持続的な発展を支援した。

【連絡先】富山県農林水産総合技術センター

(住所: 〒939-8153 富山県富山市吉岡1124-1 TEL: 076-429-2111)